

令和4年度第3回天童警察署協議会の開催

日 時	令和4年10月27日(木)午後3時から午後5時までの間
場 所	天童警察署会議室
出席者	協議会委員：会長以下5名 警察署員：署長以下10名
議 題	警察業務に関する意見要望等

【協議内容等】

委員からの意見等	警察署の回答
<p>困りごとを電話で相談できる警察相談専用電話「#9110」をもっとアピールしてほしい。</p>	<p>天童警察署及び県警察では、#9110の活用に関しては、これまでも、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ラジオ等各種メディアを活用した広報 ○警察音楽隊の活動時における広報 ○関係機関等との会議における周知活動 ○ミニ広報紙、交番だよりでの広報 ○地域警察官による巡回連絡 ○110番の日に合わせた広報 <p>等、幅広い警察活動の機会を通じて、その周知を図っているところです。 今後も積極的な広報活動を行っていきます。</p>
<p>サポート詐欺について、天童警察署管内での被害発生状況はどうか。 また、サポート詐欺の被害防止広報等はどのように行っているのか。</p>	<p>山形県内でもサポート詐欺の被害が発生しているところであります。 当署においても、今年に入って数件、サポート詐欺に関する相談が寄せられています。 山形県警察では、サポート詐欺被害防止広報動画として、YouTubeの公式チャンネルに、実際に捜査員が詐欺グループに架電して、そのやり取りを記録した動画等を掲載しているほか、巡回連絡や各種会合等でも周知の広報を行っています。 また、定期的に県警察の安全安心に関するメール配信サービス「やまがた110ネットワーク」による注意喚起の配信や、イベント等におけるチラシ配布等でも被害防止広報を実施しています。</p>
<p>電話の会話の内容等から、詐欺の疑いを通話者に知らせるような、AIを活用したシステムがあるのか。また、そのようなシステムを警察と携帯電話会社で共</p>	<p>電話会社独自のAIを活用した有料サービスがあり、その内容は、「還付金」等の特殊詐欺に関するキーワードを電話の相手方が会話に出してきた際に、AIがそのキ</p>

<p>同開発してはどうか。</p>	<p>一ワードを判断してあらかじめ連絡先として登録された家族等の電話に通知・連絡するものであると承知しています。</p> <p>警察としては、特殊詐欺に限らず、犯罪抑止や検挙等のため、最新技術を活用することは必要不可欠と考えており、引き続き、他機関等との連携を図っていきます。</p>
<p>ストーカー・DV事案や児童虐待事案等で、市、児童相談所、学校等の関係機関との連携等はどのように行っているのか。</p>	<p>ストーカー・DV事案や児童虐待事案等を認知した際は、以後の被害防止を図るため、市や児童相談所等の関係機関に連絡して情報共有を図っています。</p> <p>また、特に再発等が危惧される家庭や個人については、関係機関と個別に検討会等を開くなど、現状の共有を図り、連携を密にしています。</p>
<p>山形県警察の警察犬の活動状況等について教えてほしい。</p>	<p>山形県警察の直轄警察犬は2頭、県内に嘱託警察犬が23頭います。</p> <p>警察犬は、逃走被疑者の追及や行方不明者の捜索をはじめ、小学校等で児童と一緒に下校するなどの活動を行っています。</p> <p>訓練内容は、指導手の指示どおり動けるようにするための基本訓練や、一つ一つの臭気を嗅がせ、複数の臭気の中から該当する臭気を選別する訓練等を行っています。</p>
<p>山形県内の刑法犯認知及び検挙状況については、全体として減少傾向にある中、粗暴犯と知能犯の認知件数は増加している。具体的にどのような対策を行っているのか。</p>	<p>粗暴犯は、夜間の飲食店街で発生する場合もあることから、パトカーを出動させ、警戒を実施しています。</p> <p>また、DV事案に至らない夫婦間の口論等では、暴力事案に発展しないよう関係者に注意喚起したり、関係機関と連携するなどして、被害の未然防止に努めています。</p> <p>知能犯対策として、特に、特殊詐欺被害防止のため、銀行においては高額出金者に対する窓口対応訓練、コンビニにおいては電子マネー購入者に対する声掛け訓練等を実施しています。</p>
<p>管内の信号のある交差点で、青信号が短く、夕刻には渋滞となってしまう箇所があるので、対策がとれないか。</p>	<p>交差点における渋滞を緩和するためには、道路管理者と連携し道路形状を変更するなどの根本的な問題解決が必要な箇所もありますが、円滑な交通や渋滞緩和のため、必要と認められる箇所については、昨年も警察本部と連携して信号の間隔を見直しているところではあります。</p>

<p>機械は進歩しているのに、アルコール摂取をチェックできる自動車は、なぜできないのかと考えているが、どうか。</p>	<p>アルコール摂取をチェック可能な自動車の開発が行われていることは承知していますが、発展途上であるとお聞きしています。</p>
<p>近年、多くの車には、衝突防止等の安全装置が搭載されている。また、事故件数も減少しているとするれば、それら装置の普及もその要因の一つではないか。</p>	<p>いわゆる「サポカー」と呼ばれている車については、官民連携で普及を促進しています。交通事故の約4割は追突事故です。 5年前の交通事故発生件数と昨年の件数を比較すると、県内、天童市内ともに減少しており、このうち追突事故に関しては、半減している状況にあります。 サポカーの普及とともに、特に追突事故の減少がみられることから、自動車の安全装置の性能向上は、交通事故防止に有効と認められます。</p>